

入院看護要約

ID:00065565

Page: 1

患者基本情報			記載看護師	小柳 萌百可		病棟	西3階病棟	
氏名	武田 悦子 様		住所	〒659-0082 兵庫県芦屋市山芦屋町4-31				
生年月日	昭和 20年 9月 20日生 (80才) 女		TEL	31-2613				
入院期間	令和 8年 2月 19日(入院)		～		令和 8年 3月 16日(退院) (軽快)		在院日数: 25日	
受持ちNs	小柳 萌百可		主治医	伊阪 大二		診療科	循環器内科	
病棟師長	豊島 由佳		身長	155.0 cm		体重	46.4 Kg	
キーパーソン	氏名	武田 美智子	TEL①	31-2205		TEL②	090-5137-5750	
感染症	HBs抗原(-)、梅毒反応(-)、HCV抗体(-)							
禁忌								
身体状況	R8/2/20終末期状態いかなる場合もDNAR							
タバコ	0本		血液型	O型 Rh+				
告知						職業		
病名	誤嚥性肺炎							
既往歴	発症時期不明 高コレステロール血症 内服 発症時期不明 認知症 平成 12年頃 54歳 胆石 手術 平成 26年 6月頃 68歳 肺癌 手術 右肺部分切除 平成 31年 1月頃 73歳 左手骨折 平成 31年 1月 21日 73歳 左慢性硬膜下血腫							
退院時の食事	食種	とろみ食2 非加算		主	とろみ粥 200g		副	通常通り
退院サマリー								
項目名称			サマリー内容					
治療経過	SPO2低下を認めたため、当院へ救急搬送される。精査の結果、誤嚥性肺炎と診断され入院となる。入院後、抗生剤投与開始し炎症反応改善。ST介入し食事開始。3/2ノロウイルスに罹患するが、現在は消化器症状出現なく経過している。3/12感染隔離解除。退院許可あり。3/16退院となる。							
患者家族への説明	兄へ「誤嚥性肺炎で緊急入院し点滴加療開始している。嚥下評価行い経口摂取開始予定ではあるが十分量の栄養補給できない可能性は高そう。胃瘻、高カロリー輸液行っていますか?」と説明							
患者家族の受止めと今後の希望	説明の結果、胃瘻・CV-portの造設は希望されず。							
看護要約	【診断名】：誤嚥リスク状態 ST介入し食事開始。頸部が後屈傾向であり、摂取中に注意散漫となる。状況に応じ摂取促しているが、誤嚥リスクは高い。 【診断名】：皮膚統合性障害リスク状態 入院時より陰部・臀部に発赤や浸軟あり。皮膚科受診しカンジダ陽性、現在も軟膏塗布している。 【診断名】：転倒転落リスク状態 転倒転落危険度Ⅱ。入院中転倒転落なく経過。 【診断名】：介護者役割緊張 貴施設入所中。要介護5。							
基本項目	食事：全介助 時々むせる ----- 食事形態：とろみ食 ----- 排泄：全介助 失禁あり オムツ 最終排便:3/16 ----- 転倒転落：無 ----- 衣服の着脱：全介助 ----- 歩行：できない ----- 移乗方法(屋内)：車椅子							

退院サマリー	
項目名称	サマリー内容
	口腔状態：総義歯(上)・部分(下)
	短期記憶：問題有り
	意思決定：判断不可
	服薬管理：全介助
その他	入院時よりマグミット中止しています。